## 語り伝えたいことが、表現は異なれどこうまで同じとは…

先日、30年程前に重症児病棟に出入りしていた元学生(現在:ある国立大学の教授)が、ある研修会に招かれて来仙・講演することを知り、「聴講していいか?」と尋ねたら、「阿部さんがいると緊張するし…」とのこと。

そう云われると遠慮せざるを得ず(-\_-;)、代わりに講演前の僅かな時間を駅でランチを 共にしながら懇談した。

後日、次のようなメール(抜粋)が届いた。

も云えます。

【 仙台では、エネルギーをもらったような気持ちです。

(生きる喜びは)知るよろこびと係わり合うよろこびの2つに集約されるというお話は、 当日話そうと思っていた、「人は認識の世界と関係の世界で生きている」という話と重なっているので驚きました。

わかりやすく言えば、そういうことなんだと気づかされました。ありがとうございました。 】

相手が大学教授でも、いつものように厚かましく、次のように返信した(\*^ ^\*)

【 学究の徒用に若干理屈っぽく云えば(^o^)、脳生理学者で元東大名誉教授の時実利彦博士は、その著(「脳と人間」、1968.)の中で「集団欲は本能でないか」と述べています。つまり、人と係わり合いたい、それで得る「係わり合う喜び」は、本能に基づくものと

また、アリストテレス(古代ギリシャの哲学者)は「全ての人間は、産まれながらにして知ることを欲する」と云い、「知る喜び」があるからこそ、外界を認識するのに必要な定位反応、探索行動、接近行動が生起するとも云えます。

常々、プロとは自らの専門とすることを子どもが解る言葉で話せてこそ、真のプロ!と思っています。

自分はプロではないですが、この「係わり合う喜び、知る喜び」のことを、小学生用に解り易く話せましたよ(^^)。

「雑学BN」の講義等関係(IV)に掲載の次の記事を覗いてください。

「将来の夢(仕事)に向かって~福祉職の立場から~(2008.02.29.)」

「生徒さんたち全員から感想文をいただき、(^\_^)v ~ (2008.03.14.)」

まあ、HPであれこれ発信しているのも、「解り易く語り、伝えられるように!」との自分の訓練・試練の場でもあります(^ ^:) 】

阿部ワールド(?)の住人は、語り、伝えたいと思っていることは表現こそ異なれどこうまで同じとは…。

いや、同じだからこそ阿部ワールド (?) の住人というべきか… (^\_^)